

中部小学校教育研究会 生活・総合的な学習研究部会

- 1 実施期間 平成30年8月1日（水）
- 2 実施場所 湯梨浜町中央公民館羽合分館
- 3 講師 兵庫教育大学 教授 溝邊和成 先生
- 4 研修内容



研究主題 豊かな体験や活動を通して主体的に学ぶ子どもの育成
～探究的・協働的な活動による学びの創造～

生活科教科書の編集にもたずさわられた、兵庫教育大学の溝邊和成先生においでいただき、研修を行った。部員の実践報告、演習、指導案検討と関連づけた講義をしていただき、様々なことを学ぶことができた。

部員が1学期に行った実践報告を受けての指導場面では、体験に関する様々なご示唆をいただいた。

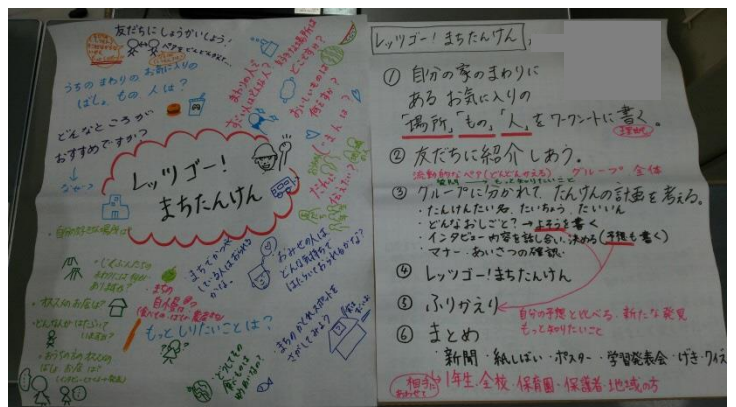
特に、1年生生活科「つちやみずとなかよし」の実践をとおして、それまでの経験を把握することの大切さ、その経験をもとにさらなる技能や知識を身に付けさせることの必要性といった教材研究の方法について、「子どもたちは言葉で動くのではなく過去の体験をもとに動くのであるから、児童の過去の体験を大切に扱うことで学習への大きな動機付けができるはずである。1年生では就学前の経験を知ること求められるため教材研究が大変ではあるが、過去の経験を知ることによって学びの質を高めることができる。」等のご指導をいただいた。

また、体験を充実させるためにはその前後の話し合いが大切であること、それがあからこそ学習展開が探究のプロセスになるということを知ることができた。話し合いの中で「なぜ」を問うことで活動の目的を明確にすることが、探究的な学びにつながると感じた。

さらに、この実践は道徳の学習と関連させた実践であり、実践やスタートカリキュラムを例に挙げながら、生活科の合科的、総合的な学習の教科横断的な単元づくりについてもご指導いただいた。合科的な学習、教科横断的な学習で学びを深めるために、生活科や総合的な学習と各教科等とのつながり整理することが重要だということを知ることができた。年間指導計画や総合的な学習全体計画の見直しの重要な視点の1つを確認することができた。

その後、前半の指導内容を生かした「単元づくり」の短時間の演習をグループで行い、それをもとに指導を受けた。

単元を作る時は「問い」を生成することで構想を広げること、ねらいと照らし合わせて学習計画を立てることをご指導いただいた。総合的な学習の時間の実践報告で、児童の興味・関心が多方面に広がり、活動の絞り込みが難しいという課題が挙げられていたが、その解決にも「問い」を作ることが欠かせないことが分かった。



講義の中で、共有体験があるから児童はつながることができ、そこでのやりとりをとおして概念を広げることができるという指導があったが、それを実感することができる研修だった。

研修の成果をそれぞれの学校での取り組みに生かし、研究をさらに深めて行きたい。